

平成24年度 お茶の水女子大学経営協議会（第3回）議事録

日 時：平成24年10月16日（火）15：00～16：40
場 所：お茶の水女子大学 大学本館2階 第一会議室（213室）
出席者：（学外委員）足立委員、池田委員、小倉委員、小野委員、北村委員、
國井委員
（学内委員）羽入学長、市古理事、耳塚理事、河村理事、江澤理事、
鷹野副学長、三浦副学長（戦略担当）
（陪 席）齋藤監事、吉武監事、
三浦文教育学部長、最上理学部長、大塚生活学部長、
石口人間文化創成科学研究科長、高崎附属学校部長、
香西財務室長、新井総合評価室長

1. 開会

2. 〔平成24年度（第2回）〕議事録（案）の確認

○修正等がある場合は、本日から一週間位までの間に、総務チームまで連絡することとした。

3. 審議事項

（1）平成24年度学内補正予算について

○総務機構長及び財務チームリーダーより、平成24年度学内補正予算について、【資料3】に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

（2）全学評価の自己評価書について

○総務機構長より、全学評価の自己評価書について、【資料4】に基づき説明があり、審議の結果、基準9管理運営観点⑦の項に、監査・資金運用委員会等運用面の危機管理の取組みについて加筆することとし、原案のとおり承認された。

4. 報告事項

（1）平成23事業年度に係る業務の実績に関する国立大学法人評価委員会のヒアリングについて

○総務機構長より、平成23事業年度に係る業務の実績に関する国立大学法人評価委員会のヒアリングについて、【資料5】に基づき報告があった。

（2）外部資金受入状況について

○国際・研究機構長より、外部資金受入状況について、【資料6-1】に基づき報告があった。

①平成24年度グローバル人材育成推進事業（全学推進型）

○国際・研究機構長より、平成24年度グローバル人材育成推進事業（全学推進型）について、【資料6-2】に基づき報告があった。

②平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」

○教育機構長より、平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」について、【資料6-3】に基づき報告があった。

③平成24年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」

○教育機構長より、平成24年度「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」について、【資料6-4】に基づき報告があった。

(3) 平成 24 年度「博士課程教育リーディングプログラム」審査結果について

- ①(オールラウンド型)「新しい公共性を担うグローバル女性リーダー養成プログラム」
- ②(オンリーワン型)「生命栄養学をデザインするグローバル女性リーダー育成プログラム」

○学長より、平成 24 年度「博士課程教育リーディングプログラム」審査結果について、【資料 7】に基づき報告があり、申請の際のご協力に対しお礼が述べられた。

(4) その他

①平成 25 年度概算要求の経過について

○総務機構長及び財務チームリーダーより、平成 25 年度概算要求の経過について、【資料 8】に基づき報告があった。

②海外留学特別奨学金の新設について

○教育機構長より、海外留学特別奨学金を新設したことの報告があった。

③シンポジウム「学生寮～大学の戦略と教育可能性～」について

○教育機構長より、8 月 31 日に開催したシンポジウム「学生寮～大学の戦略と教育可能性～」について、机上資料に基づき報告があった。

④平成 24 年度卒業生・修了者の進路状況等について

○教育機構長より、平成 24 年度卒業生・修了者の進路状況等について、【資料 9】に基づき報告があった。

5. 意見交換

○「ミッションの再定義」について

学長より、国立大学に大学改革を根本的に行うことが求められていることの説明があり、本学のミッションの再定義について引続き助言願いたい旨発言があった。

■学外委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・社会のニーズに対応した教育の見直しを行ってほしい。
- ・社会から何が求められているか十分検証した上で、カリキュラムあるいは学科の再編成について全学的に議論されることが重要。
- ・将来的には、クラシックな現在の学部構成を見直し、社会人として女性が活躍するための学部の在り方を検討することが必要。
- ・「女性研究者を取り巻く質的・量的環境の整備」は、女子大学でこそ仕掛けとその結果が判明しやすい得意な分野である。「仕掛けました。こうしました。結果はこうでした。」と流れを可視化し、第三者に対し効果を明示することが大事。
- ・「キャリアデザインプログラム」も大事であるが、それを超えて「社会改革プログラム」を作成する努力をしていただきたい。
- ・「生涯教育」の取組みをもっと発信願いたい。
- ・ビジネススクール関係の基礎教育科目を開設してもらいたい。
- ・末代まで卒業生を支援することも、任務の一つではないか。
- ・「お茶の水女子大学支援クラブ」を設けたらいいかがか。
- ・「女性を活用しない組織は生き残れない。」という評価を示したらいいかがか。

■本学からの主な回答・発言は以下のとおり。

- ・「女性研究者の支援」の成果は必ずしも数値だけでは表せないと考えているが、短期的に出る成果だけでも示さなければならないと考えている。
- ・「男女共同参画社会」の必要要素が何であるか「研究」することが重要であると考えており、今後改めて研究対象に特化し取り組んで行くことを考えている。
- ・「教員の再教育」については、外部から注目されている。「企業人の教育」について、着手している。
- ・学部を再編することも一つの手段ではあるが、複数プログラム選択履修制度は、学部の枠を越えた教育制度であり、まずはこれを有効に機能させることが重要であると考えている。
- ・社会が本当に何を求めているか見極め提案していくことが重要と考えている。

6. その他

(1) 「平成 24 年度 A-W i L シンポジウム」

○鷹野副学長より、「平成 24 年度 A-W i L シンポジウム」の開催について、案内があった。

(2) 「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」平成 23 年度成果報告

○鷹野副学長より、「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」平成 23 年度成果報告書の刊行について、報告があった。

○学長より、次回以降の開催予定について、【資料 10】に基づき説明があり、次回開催は、平成 25 年 1 月 22 日（火）15 時からであることを確認した。

以 上